

実施団体の概要

- ・所在地：徳島県海部郡美波町・牟岐町・海陽町
- ・実施主体名：海部次世代園芸産地創生推進協議会
- ・栽培作物・作付面積：施設キュウリ・1.2ha
- ・取組人数：8名（令和6年4月現在）

導入技術

- ・通信型環境制御装置（(株)デンソー製「プロファームコントロール」）
各種センサーの情報を活用したハウス環境制御を行うことにより、施設キュウリ栽培に必要な光・養水分・CO2・温度・湿度・風をコントロール。
- ・栽培ハウス間を通信ネットワーク化し、ハウス内環境データを相互にモニタリングし比較できる環境を整備。

導入経緯

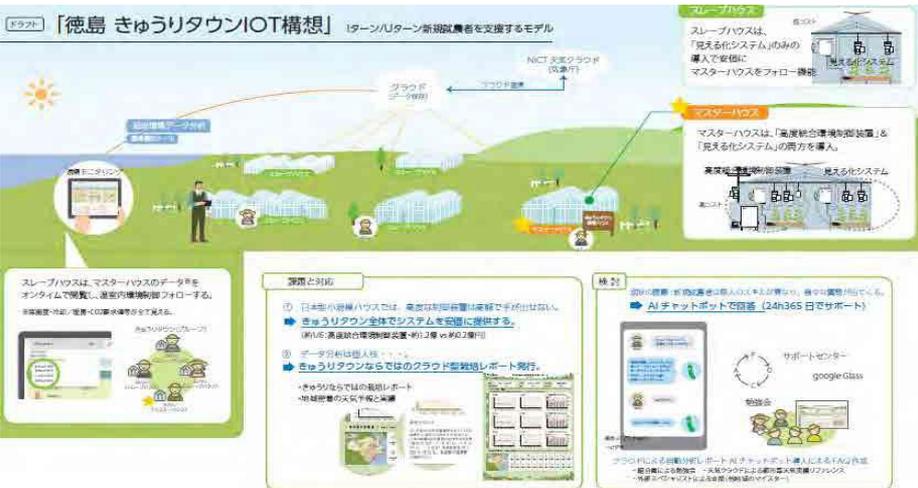
- H27年に統合環境制御装置を備えた次世代園芸実験ハウス（以下実験ハウス）を整備し、ヤシガラ培地による養液栽培を開始した。
- H29年より通信型環境モニタリング装置を備えた新規就農者の栽培ハウスを整備し、モニタリングを開始した。
- さらに、H30・R元年度に統合環境制御が可能となる設備に改修した（データ駆動型農業の実践・展開支援（データ駆動型農業の実践体制づくり支援）事業）。

取組の特徴・効果

- 通信型環境モニタリング設備を整備し、実験ハウスと新規就農者栽培ハウス間の通信ネットワークを構築することで、実験ハウスで蓄積したデータを基に環境制御技術の平準化を図った。また、統合環境制御設備に改修整備し、手動で行っていた環境制御を自動化し、生産性の向上を図った。
- 統合環境制御装置を備えた実験ハウスにおいて、きゅうり養液栽培のデータ収集・解析を行い栽培マニュアルを作成し、新規就農者の技術習得に活用した。

【今後のスケジュール】

- 各栽培ハウスの環境測定データと、キュウリの生育・収量を照合および分析し、ノウハウの蓄積を続けることで、さらなるマニュアルの内容の充実を図り収量増につなげる。



(イメージ図)